



▲パリのカフェの前で。写真左端が桑名正子さん。

パリで画家として活躍する桑名正子さん(壬生川出身)から、ふるさとへのメッセージをいただきました。

パリの夏は暑いといっても湿気がなく、木陰に入ればさわやかな風が吹いています。

私は旧東予市壬生川の新地商店街で生まれました。

娯楽の少ない私の子ども時代には夏の夜市のはなやかなにぎわいにうれしく楽しく心を踊らせたものです。

長じてから自分の意志で単身パリに渡り、アーティストとして身を立ってきました。日本で過ごした年月よりもパリ生活の方が長くなり本拠地は今もパリですが、3年ほど前、壬生川駅のすぐそばに多目的アトリ

エ「パリの風」を開き、1年に1カ月か2カ月の一時帰国中のおきのみオープンしています。自宅兼アトリエでもあります。

私ですが、作品展示もできるギャラリーにもなっており、画業のかたわら文化交流のサロンとしても育って行くようにと心がけています。

古いものを大事にすることで成り立ってきたパリという町に住んで「外」から見た日本の良さ、ふるさとの良さを地域の人々にお知らせしながら、これからの市の発展のためのヒントにでもなればと願っています。

「パリの風」の趣旨である文化交流の一つとして5月に一時帰国中、私自身の作品展の他に、パリに住み国際的に活躍する銅版画の大家エクトール・ソーニエ氏(私の師である世界的アーティスト・亡きウイリアム・ヘイター氏の版画工房の後継者)を招き、彼の作品を私の多目的アトリエ「パリの風」に展示して大変公表を博しました。

岡山から特急に乗って壬生川駅に着いたエクトール氏は、すでに列車の窓からの景色で

このあたりの山あり海ありの地方の魅力にすっかり魅了されており、着いたときからすぐぶる上機嫌でした。4日間の滞在中、午後は来場者と談笑。空いた時間にお連れしたところは「本谷温泉」と「東予国民休暇村」と「国安和紙の里」でした。オンセンに入るのは初めてだったのですが、緑の溢れる山あいにあるひなびた魅力ある本谷温泉では露天風呂にも入りご満悦で、国安ではたくさん和紙を買いました。

東予国民休暇村の下に広がる静かな海岸に降り立って、瀬戸内の深い青の優しい海の眺めには陶然としてしまい何時間でもそこを動こうとしませんでした。

パリに帰ってきた彼は、ニューガワ(彼にとっては知っている地名はニューガワだけなので)の話をおう人ごとにしています。「今まで日本各地をいろいろ回ったけどニューガワのあたりは何と云っても最高だよ。オンセンはあるし、山も海も近いし、あんないいところは他にないよ」と手放しで言っています。パリからの遠来の客により思わぬふるさと再発見をさせてもらったのです。

たくさんの人に登山を楽しんでもらうために…

## 登山愛好会から ボランティアグループへ



### ▲▲▲ 赤滝登行会 (丹原町) ▲▲▲

代表：十亀隆良 会員：14人 (30歳～65歳)

写真は、案内標識を補修する赤滝登行会のメンバー(堂ヶ森登山道の保井野方面と梅ヶ市方面の分岐点)

続けています。

先日、愛媛県自然保護協会会長表彰を受賞しました。

「中・高年の登山ブームが続いており、訪れた人が安全に登山を楽しんでくれることを思えば、作業の疲れも苦になりません。2市2町の合併により、石鎚山を中心とする山岳ルートは本市観光目玉のひとつ。活動が、少しでも登山客の誘致と市民の一体感の醸成につながれば…」と、十亀代表や会のみなさんは今後の活動に意欲をみせていました。

昭和38年、登山愛好会として発足した赤滝登行会は、昭和50年に登山を楽しむグループから快適で安全な登山を楽しんでもらうためのボランティアグループとして、再スタートを切りました。

当時、荒廃していた赤滝城址(丹原町鞍瀬)への登山道の整備を行ったことから、グループ名を現在の『赤滝登行会』としました。

これ以後、堂ヶ森(丹原町鞍瀬・標高1689m)を中心に、夫婦滝登山道(同所)などの補修・草刈り・パトロールなど年間十数回の作業を